

2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年10月30日

上場会社名 オークマ株式会社
 コード番号 6103 URL <http://www.okuma.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2019年11月8日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

上場取引所 東 名

(氏名) 家城 淳
 (氏名) 堀江 親
 配当支払開始予定日 2019年11月26日
 TEL 0587-95-7822

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	89,352	△11.0	9,187	△24.9	9,484	△27.7	6,141	△23.1
2019年3月期第2四半期	100,374	21.0	12,232	41.3	13,115	44.3	7,987	36.2

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 5,317百万円 (△34.0%) 2019年3月期第2四半期 8,058百万円 (△18.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	194.53	—
2019年3月期第2四半期	249.02	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	224,878	171,841	73.3
2019年3月期	237,720	168,580	68.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 164,883百万円 2019年3月期 161,725百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	60.00	—	65.00	125.00
2020年3月期	—	65.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	65.00	130.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	170,000	△19.7	16,200	△41.3	17,000	△39.7	11,000	△40.6	348.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期2Q	33,755,154 株	2019年3月期	33,755,154 株
2020年3月期2Q	2,182,438 株	2019年3月期	2,182,009 株
2020年3月期2Q	31,572,949 株	2019年3月期2Q	32,077,287 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10
3. その他	11
(1) 受注及び販売の状況	11
(2) 海外売上高	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、激化する米中貿易戦争の影響を受け、景気の減速感が一段と強まる展開となりました。

米国経済は、製造業の景況感に低下が見られるなど米中貿易戦争の影響により景気が低迷しました。欧州経済はドイツ経済の不振により景気が低迷し、成長の鈍化が続きました。中国経済は、景気対策により大幅な落ち込みは回避するも、減速傾向で推移しました。

わが国経済は、海外経済の減速や世界的な半導体需要の減退による輸出の低迷を受け、景気に足踏み感が見られ、製造業においては調整局面が続きました。

工作機械の需要動向につきましては、米国市場では、米中貿易戦争の先行き不透明感の高まりを受け、設備投資の先送りが顕著となりました。欧州市場では、輸出の低迷やドイツ経済の減速が影響し、工作機械の需要は低調に推移しました。中国市場では、一時期持ち直しの動きが期待されましたが、米中貿易交渉の進展が見られず、工作機械の需要低迷が続きました。

国内市場では、労働力不足等への対応から、設備投資マインドは見られ、積極的な投資をする動きはあるものの、輸出の減少や米中貿易戦争の先行きを警戒し、設備投資を先送りする動きが見られました。

このような経営環境の下、当企業グループはAI・知能化技術を搭載したスマートマシンの提供や、生産性向上に寄与するスマートマニュファクチャリング技術・製品の提案を進め、受注・売上・利益の拡大に努めてまいりました。

営業戦略におきましては中国国際工作機械展覧会「CIMT2019」（北京、2019年4月開催）や欧州国際工作機械見本市「EMO2019」（ドイツ・ハノーバー、2019年9月開催）等、世界的な国際見本市をはじめ、各地の地方展示会にも積極的に出展し、オークマブランドの浸透と拡販に努めました。「EMO2019」では、工作機械と同じ操作感で使用でき、複雑なティーチングが不要な次世代ロボットシステム「ARMROID」と単ロボットセル「STANDROID」を出品し、グローバルに根強い生産性向上のニーズに対し、自動化・無人化の新たな在り方をアピールいたしました。また、主要市場であるドイツにおける技術動向、ユーザーニーズに的確に答える為、現地販売代理店をオークマヨーロッパGmbHの販売子会社とし、営業強化も図りました。

技術戦略におきましては、次世代ロボットシステム「ARMROID」の適用機種拡大や、生産性向上に向けニーズが高まる5軸制御マシニングセンタ、複合加工機や自動化技術の開発強化を図りました。「ARMROID」は、工作機械の加工室内に多関節ロボットを干渉なくビルトインしたロボットシステムであり、部品加工の自動化と生産性向上を図る革新的なロボットシステムとして、日刊工業新聞社主催の「2018年（第61回）十大新製品賞本賞」に続き、「日刊工業新聞社第49回機械工業デザイン賞最優秀賞（経済産業大臣賞）」、「2019年度（第39回）精密工学会技術賞」を受賞しました。

製造戦略におきましては、2019年5月に最新鋭のスマートファクトリーDS3（Dream Site 3）が竣工し、立形・横形マシニングセンタの自己完結一貫生産、超高効率生産をスタートさせました。また、新生産管理システム、新物流管理システムを全工場の各部品へ適用し、生産効率の向上、リードタイムの短縮を推し進めました。

海外では、中国市場で拡大するプレミアム・エコ「GENOSシリーズ」の需要に対応するため、江蘇省常州市に生産子会社「大隈（常州）机床有限公司」を設立しました。これにより、「GENOSシリーズ」の短納期対応、エンジニアリング力強化を図ってまいります。

これらの事業戦略を確実に実行してまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の連結受注高は75,033百万円（前年同四半期比33.4%減）、連結売上高は89,352百万円（前年同四半期比11.0%減）、営業利益は9,187百万円（前年同四半期比24.9%減）、経常利益は9,484百万円（前年同四半期比27.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は6,141百万円（前年同四半期比23.1%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間における総資産は、前連結会計年度末と比較して12,841百万円減少し、224,878百万円となりました。主な要因は、「現金及び預金」の減少20,982百万円、「受取手形及び売掛金」の減少5,690百万円、「たな卸資産」の増加5,274百万円、「建物及び構築物」の増加4,207百万円、及び「投資有価証券」の増加782百万円などによるものです。また、負債は前連結会計年度末と比較して、16,103百万円減少いたしました。主な要因は「1年内償還予定の社債」の減少5,000百万円、「支払手形及び買掛金」の減少4,634百万円、「電子記録債務」の減少3,041百万円、及び「未払法人税等」の減少1,944百万円などによるものです。純資産は、「利益剰余金」の増加4,089百万円、及び「為替換算調整勘定」の減少1,477百万円などにより、3,261百万円の増加となりました。この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は73.3%となりました。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前年同四半期連結累計期間末と比較して23,263百万円減少し、36,515百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,460百万円の支出となりました（前年同四半期連結累計期間は2,257百万円の収入）。主な資金の増加項目としては、税金等調整前四半期純利益9,178百万円、及び売上債権の減少5,982百万円であります。一方、主な資金の減少項目としては、仕入債務の減少8,090百万円、たな卸資産の増加5,354百万円、及び法人税等の支払額4,707百万円であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、11,636百万円の支出となりました（前年同四半期連結累計期間は2百万円の収入）。主な資金の減少項目としては、有形固定資産の取得による支出8,173百万円、及び連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出1,704百万円であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、7,256百万円の支出となりました（前年同四半期連結累計期間は2,186百万円の支出）。主な資金の減少項目としては、社債の償還による支出5,000百万円、及び配当金の支払額2,051百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の世界経済の見通しにつきましては、長期化する米中貿易戦争の先行き不透明感や、BREXITや中東情勢などの政治リスクが、引き続き下押し圧力になり、しばらくは、景気は弱い動きで推移するものと思われま

一方で、工作機械需要は、中長期的には構造的な労働力不足への対応として、自動化、無人化への投資はグローバルに根強く、今後とも底堅く推移し、先行き懸念が後退すれば、いずれ潜在需要は発現すると見込まれます。

さらに、デジタル分野では、AIや5G等、新技術対応に向けた設備投資が見込まれ、自動車分野では電動化等、環境対応への開発投資が期待されます。

当企業グループは自動化技術・知能化技術を強化し、大規模工場のみならず、中小規模工場にも広がる自動化・無人化の需要に幅広く応えてまいります。

当面の工作機械の需要動向については、米国市場では、米中貿易交渉の行方や制裁措置によっては設備投資に対する姿勢が更に慎重となり、更なる需要減少への警戒が必要と思われま

国内市場では、激化する米中貿易戦争を背景とした輸出の低迷等により、設備投資意欲は底堅いものの、暫くは先送りする動きが見られると思われま

このような経営環境の下、当企業グループは、世界の生産性向上を図る技術・製品・サービスの提供により、最高の「ものづくりサービス企業」を目指してまいります。労働力不足が世界の製造業の課題となる中、高まる自動化・無人化、生産性向上に対するニーズに世界を先導して応えてまいります。

営業戦略におきましては、国内、海外の展示会に積極的に参加し、オークマの強み「機電情知融合」が実現する顧客の付加価値向上を強力にアピールし、顧客基盤の拡大を図ってまいります。2019年11月に本社工場、可児工場にてオークマシンフェアを開催し、国内外のユーザーに、最新鋭のスマートマシンやDS3 (Dream Site 3) でのAI、IoT活用のスマートマニュファクチャリング技術、自動化・無人化ソリューションをアピールし、受注拡大に繋いでまいります。

技術戦略におきましては、独自のAI・知能化技術を搭載したスマートマシンの開発を更に進め、また「ARMROID」のシリーズ化をはじめ、自動化、無人化システムの仕様展開の充実を図り、グローバルに自動化ソリューションを浸透させてまいります。

製造戦略におきましては、本社工場のDS2 (Dream Site 2) 組立工場の建設計画を具体化し、本社工場のスマートファクトリー化の完成を進めます。

海外では、台湾の生産子会社「大同大隈股份有限公司」において、世界的に需要が高まっているプレミアム・エコ「GENOSシリーズ」のNC旋盤及び立形マシニングセンタの更なる生産力の強化を図ってまいります。

これらの取り組みにより、当企業グループの成長戦略を強力に推し進めてまいります。

しかしながら、工作機械需要の足下の水準は、期初の想定を下回るものであり、これに対して、収益確保に向けた諸施策で補いきれず、2019年4月26日に公表いたしました2020年3月期の通期連結業績予想を修正いたしました。通期の連結業績予想につきましては、下表のとおりであります。

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円)
2020年3月期 (修正後の予想)	170,000	16,200	17,000	11,000	348.40
2019年3月期 (実績)	211,732	27,575	28,186	18,521	578.55
増減率	△19.7%	△41.3%	△39.7%	△40.6%	△39.8%

修正後の予想の前提となる為替レートは、通期で1ドル=108.8円、1ユーロ=120.2円としております。

なお、具体的内容につきましては、本日(2019年10月30日)に公表しております「2020年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	61,222	40,240
受取手形及び売掛金	45,178	39,487
電子記録債権	801	638
たな卸資産	54,615	59,890
その他	5,056	5,604
貸倒引当金	△154	△170
流動資産合計	166,720	145,690
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	21,081	25,288
その他（純額）	21,571	23,085
有形固定資産合計	42,652	48,373
無形固定資産		
投資その他の資産	3,534	5,318
投資その他の資産		
投資有価証券	21,808	22,591
その他	3,044	2,943
貸倒引当金	△40	△40
投資その他の資産合計	24,812	25,495
固定資産合計	70,999	79,187
資産合計	237,720	224,878

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,880	14,246
電子記録債務	15,735	12,693
1年内償還予定の社債	5,000	-
未払法人税等	5,541	3,597
賞与引当金	3,325	3,099
役員賞与引当金	141	69
製品保証引当金	344	362
その他	12,575	11,545
流動負債合計	61,545	45,614
固定負債		
社債	5,000	5,000
退職給付に係る負債	1,035	676
その他	1,558	1,745
固定負債合計	7,594	7,422
負債合計	69,139	53,036
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,000	18,000
資本剰余金	41,718	41,718
利益剰余金	107,851	111,941
自己株式	△9,858	△9,860
株主資本合計	157,711	161,798
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,946	7,397
繰延ヘッジ損益	0	△1
為替換算調整勘定	△1,507	△2,984
退職給付に係る調整累計額	△1,425	△1,326
その他の包括利益累計額合計	4,013	3,084
非支配株主持分	6,855	6,958
純資産合計	168,580	171,841
負債純資産合計	237,720	224,878

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	100,374	89,352
売上原価	69,410	61,917
売上総利益	30,964	27,434
販売費及び一般管理費	18,732	18,246
営業利益	12,232	9,187
営業外収益		
受取利息	117	123
受取配当金	401	376
為替差益	280	-
その他	269	330
営業外収益合計	1,068	830
営業外費用		
支払利息	29	20
為替差損	-	225
その他	156	287
営業外費用合計	185	533
経常利益	13,115	9,484
特別損失		
投資有価証券売却損	664	-
工場再構築費用	-	306
特別損失合計	664	306
税金等調整前四半期純利益	12,451	9,178
法人税等	4,066	2,699
四半期純利益	8,385	6,478
非支配株主に帰属する四半期純利益	397	336
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,987	6,141

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	8,385	6,478
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△831	451
繰延ヘッジ損益	△3	△1
為替換算調整勘定	820	△1,709
退職給付に係る調整額	37	98
持分法適用会社に対する持分相当額	△350	-
その他の包括利益合計	△326	△1,161
四半期包括利益	8,058	5,317
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,936	5,213
非支配株主に係る四半期包括利益	122	103

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	12,451	9,178
減価償却費	2,709	3,025
のれん償却額	-	4
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△15	20
賞与引当金の増減額(△は減少)	△215	△209
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△72	△72
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△298	△314
受取利息及び受取配当金	△519	△499
支払利息	29	20
為替差損益(△は益)	119	△101
投資有価証券売却損益(△は益)	664	-
売上債権の増減額(△は増加)	△1,055	5,982
たな卸資産の増減額(△は増加)	△4,353	△5,354
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,835	△8,090
その他	787	△1,821
小計	6,393	1,768
利息及び配当金の受取額	495	499
利息の支払額	△25	△21
法人税等の支払額	△4,606	△4,707
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,257	△2,460
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(△は増加)	1,913	△872
有形固定資産の取得による支出	△1,911	△8,173
有形固定資産の売却による収入	0	1
無形固定資産の取得による支出	△816	△680
投資有価証券の取得による支出	△252	△107
投資有価証券の売却による収入	1,079	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△1,704
その他	△10	△99
投資活動によるキャッシュ・フロー	2	△11,636
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△258	△201
社債の償還による支出	-	△5,000
自己株式の取得による支出	△2	△2
配当金の支払額	△1,924	△2,051
非支配株主への配当金の支払額	△0	△1
その他	△0	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,186	△7,256
現金及び現金同等物に係る換算差額	333	△498
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	407	△21,852
現金及び現金同等物の期首残高	59,371	58,367
現金及び現金同等物の四半期末残高	59,778	36,515

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	日本	米州	欧州	アジア・パ シフィック	計		
売上高							
外部顧客への売上高	50,941	27,232	15,733	6,467	100,374	—	100,374
セグメント間の内部売上高 又は振替高	36,265	15	81	5,506	41,868	△41,868	—
計	87,206	27,247	15,815	11,974	142,243	△41,868	100,374
セグメント利益	9,428	1,362	930	1,066	12,788	△556	12,232

(注) 1. セグメント利益の調整額△556百万円は、未実現利益の消去他であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	日本	米州	欧州	アジア・パ シフィック	計		
売上高							
外部顧客への売上高	44,564	24,968	12,584	7,233	89,352	—	89,352
セグメント間の内部売上高 又は振替高	32,939	22	44	6,743	39,749	△39,749	—
計	77,503	24,991	12,628	13,977	129,101	△39,749	89,352
セグメント利益	7,505	1,215	333	1,120	10,174	△987	9,187

(注) 1. セグメント利益の調整額△987百万円は、未実現利益の消去他であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他

(1) 受注及び販売の状況

①受注状況

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高
NC旋盤	26,298	21,598	18,773	19,457
マシニングセンタ	53,891	43,878	33,821	31,236
複合加工機	27,907	15,496	18,073	9,970
NC研削盤	2,741	2,310	2,120	2,268
その他	1,772	742	2,244	1,297
合計	112,610	84,026	75,033	64,229

(注) 受注高、受注残高には消費税等は含まれておりません。

②販売実績

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	
	売上高	構成比(%)	売上高	構成比(%)
NC旋盤	22,213	22.1	23,260	26.0%
マシニングセンタ	53,354	53.2	40,792	45.7%
複合加工機	21,499	21.4	21,133	23.7%
NC研削盤	1,639	1.6	2,189	2.4%
その他	1,667	1.7	1,976	2.2%
合計	100,374	100.0	89,352	100.0%

(注) 売上高には消費税等は含まれておりません。

(2) 海外売上高

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

	米国	その他 米州	欧州	中国	その他 アジア・パ シフィック	計
I 海外売上高(百万円)	22,196	4,701	15,808	12,530	5,630	60,867
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	—	—	100,374
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	22.1	4.7	15.7	12.5	5.6	60.6

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

	米国	その他 米州	欧州	中国	その他 アジア・パ シフィック	計
I 海外売上高(百万円)	20,940	3,714	12,819	9,146	7,869	54,491
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	—	—	89,352
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	23.4	4.2	14.4	10.2	8.8	61.0